

ウイズ

渋川医療センター

広報誌



高木渋川市長と病院幹部

基本理念

北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携し、その役割を果たします。

基本方針

1. 患者さんの気持ちに寄り添った医療を実践します。
2. 十分な情報を提供し、共に考える医療を行います。
3. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児（者）の専門病院として社会に貢献します。
4. 地域医療支援病院として、救急医療を含め地域の医療機関と連携し地域医療に貢献します。
5. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します。
6. 教育・研究事業に積極的に取り組み、質の高い医療を常に目指します。
7. 良質な医療を継続的に確保するため、健全な経営と適正な運営に努めます。

【目次】

新春の御挨拶	1
令和6年度QC活動奨励表彰 関東信越グループ特別優秀賞を受賞して	2
「リレー・フォー・ライフジャパン2024ぐんま」 へ参加しました	3
第10回市民公開セミナーを開催しました	3
「第6回連携協力医大会」を開催いたしました	4
職場紹介	
治験管理室	5
認定看護師紹介	
がん放射線療法看護認定看護師	6
シリーズ	
●患者さんにとって耳よりの情報 からだの筋肉量や基礎代謝量を知ろう	7
●ご存じですか? 「障害者差別解消法」について	8
●外来診療担当医表	9
●セカンドオピニオン担当医表	11
●患者さんの権利	11
●看護の理念、看護の基本方針	11
●編集後記	11

新春の御挨拶

院長 高橋 章夫



皆様、あけましておめでとうございます。年頭にあたり皆様に新年のご挨拶を申し上げるとともに、昨年の振り返りと今年のビジョンについて述べさせていただきます。

2024年はまさに「災害の年」でありました。元日の能登半島地震に始まり、多くの自然災害が日本列島を襲いました。大自然の脅威に対し、我々がいかに無力であるかを痛感するとともに、互いに支えあうことの大切さを学んだ年でもありました。「災害に対する病院機能の強靱化」に今後も取り組んでいかねばなりません。さらに、ポストコロナの時代、人々の行動変容、生活様式の変化や医師働き方改革、医療DXなどにより医療の大きな変化の波が到来、病院経営も大きな影響を受け、それは今も続いております。その中で、新たに導入した手術支援ロボットによるがん手術は順調に発展してきており、当院の大きな柱であるがん診療において、より低侵襲で正確な手術を患者の皆様にご提供できるようになっています。

さて、当院は地域の基幹病院として急性期医療に携わるとともに、重症心身障害や結核、緩和ケアにも対応するケアミックスタイプの病院です。地域のクリニックや病院群と連携しながら、「患者さんを治療し、そして優しく支えていく」病院でなければなりません。すなわち、「医療とケア」、あるいは「一般的な地域診療と高度な専門医療」のいわば“二刀流”で、人口減少が続く北毛地域で当院を頼りとする皆様に良質な医療を提供しつつ、高度な専門医療を国内外に発信するユニークな総合病院を目指してまいりますので、何卒御支援下さいますようお願い申し上げます。

令和6年度QC活動奨励表彰 関東信越グループ特別優秀賞を受賞して

緩和ケア病棟看護師 櫻井 直美

令和4年度より、渋川医療センター看護部QS委員会として、医療サービス向上委員会、および看護部の方針に基づき、患者サービスの向上、安全・満足の高い医療・看護の提供を目指して活動をしてきました。

今回、令和5年度に取り組んだ活動『挨拶から始まるコミュニケーション ～患者から見た私たちの行動を振り返る～』が昨年に続いて2年連続で、令和6年度国立病院機構QC活動奨励表彰のグループ特別優秀賞をいただきました。私たちはチーム名「みんなの笑顔を増やし隊😊」として、QS委員5名が中心となり接遇改善に取り組みました。

当院は、地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院等、北毛地域の基幹病院であり、地域に必要な医療を提供していかなければならない立場にあります。しかし、患者さんから「看護師さん、忙しそうで声がかけられない。」「呼んでもすぐに来てくれない。」という声を聞く場面がみられました。また、感染予防対策として病院スタッフはマスクを着用するため、表情や感情が患者さんへ伝わりにくい現状があります。これらを踏まえて、表情が伝わるような笑顔、声のトーンや目線を合わせた対応や適切な言葉遣いなどの工夫が必要であると考えました。そこで、接遇についてのポスターや勉強会資料を作成し、各病棟へ配布・掲示し、全スタッフ対象に接遇改善の勉強会を開催しました。その結果、前年度患者満足度調査では、国立病院機構の平均と比較して患者満足度が向上しました。全スタッフに接遇の重要性・具体的な対応の方法について周知でき、接遇に対する意識を高めることができました。

今後もさらにレベルアップを目指した接遇改善に取り組み、痛みや辛さ、不安や緊張等の状態にある患者さん・ご家族への理解や気配り、心遣いを大切にすることで、患者さんに選ばれる病院を目指していきたいと思えます。



「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ぐんま」へ参加しました

庶務班長 荻原 剛之

去る2024年10月12日(土)～13日(日)の2日間にわたり「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ぐんま」が開催され、当院からは約30名の有志が参加しました。

リレー・フォー・ライフは、がん患者さんやその家族を支援し、がん征圧を目指すチャリティーイベントです。「がん患者は24時間、病気と向き合っている」という想いを共有し、ともに歩き語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいとするこのイベントは、現在、世界34か国、約2,460か所で開催され、日本国内においても、2023年度は47か所で開催され、40,000人を超える参加者が集いました。

過去には、台風や新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模なリレーイベントの休止や縮小開催となっていましたが、昨年5年ぶりに夜を超えてのリレーイベントが復活し、今年も同様に通常開催となったことから、県内の医療関係者が多数参加していました。

当日は天候にも恵まれ、晴天の青空の下、汗ばむほどの陽気の中を参加者は交代で歩き続け、無事にゴールを迎えることができました。

地域がん診療連携拠点病院である当院では、引き続きリレー・フォー・ライフの活動趣旨に賛同するとともに、これからもがん患者さんとその家族に寄り添い、良質な医療の提供に努めてまいります。



第10回市民公開セミナーを開催しました

経営企画室長 海野 恭司

がん診療連携拠点病院における機能強化学業の一環として、令和6年11月7日(土)に第10回市民公開セミナーを開催しました。

今年は「渋川医療センターでできるがん診療の最前線～ロボット手術について～」をテーマに、当院外来および大会議室を会場として、第1部「健康測定及び健康相談会」、第2部「講演会」の2部構成で開催し、延べ135名の方々にご参加いただきました。

第1部の健康測定では各専門職種による骨密度測定、リンパマッサージ等の健康測定を実施させていただき、多くの来場者様にご参加いただきました。健康相談会についても、お薬、食事、福祉等の相談会によって会場も盛況となりました。

第2部の講演会では、吉成消化器外科部長による「大腸がんに対するロボット支援下(ダビンチ)手術」、八巻呼吸器外科部長による「肺がんに対するロボット支援下(ダビンチ)手術」の2つの講演が行われ、最後まで盛況な市民公開セミナーとなりました。



健康測定・健康相談



講演会の様子

「第6回連携協力医大会」を開催いたしました

地域医療連携係長 小畠 美津穂

2024年11月14日(木)19時より、プレヴェール渋川にて「渋川医療センター第6回連携協力医大会」を開催しました。

日頃より、病診連携でお世話になっている連携協力医の先生方をお迎えし、100名以上に及ぶ参加者のもとスタートいたしました。

高橋章夫院長による開会挨拶に始まり、ご来賓を代表いたしまして中野正幸渋川地区医師会会長、飯塚正彦渋川北群馬歯科医師会専務理事よりご挨拶を賜りました。

第一部では、吉成大介消化器外科部長より「ロボット手術について」、渡邊覚患者相談支援センター長より「連携状況報告」を、当院の活動紹介として報告させていただきました。

林秀彦沼田利根医師会会長より乾杯のご発声をいただき、第二部意見交換会がスタートしました。振り返ってみますと、2020年から2022年はコロナ禍のため、連携協力医大会を開催することができませんでした。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行された2023年、当院でも約2年ぶりとなる連携協力医大会が再開されました。しかし、開催できたとは言え、長期に及ぶ新型コロナウイルス感染症への対応の経験から慎重に実施せざるを得ませんでした。今年の連携協力医大会では、例年通りの活気が戻り第二部は大変な熱気に包まれていました。参加されていた先生方もお席を移動されながら多くの方々と歓談されており、笑顔や活気に満ちた意見交換会となっていたように思います。

来年、渋川医療センターは開院10年目を迎えます。地域の先生方から「選ばれる病院」となるよう、職員一同地域医療により一層力を入れてまいりたいと思います。また、地域の皆さんが、住み慣れた場所で自分らしい暮らしをおくることができるよう、連携協力医の先生方と協力しながら、北毛地区の基幹病院として役割を存分に発揮できるよう努力してまいります。今後も引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



開会ご挨拶(高橋章夫院長)



来賓ご挨拶(中野正幸渋川地区医師会会長)



来賓ご挨拶(飯塚正彦渋川北群馬歯科医師会専務理事)



当院の活動紹介「連携状況報告」



乾杯ご発声
(林秀彦沼田利根医師会会長)

治験管理室 治験主任 直井 隆浩

治験管理室は臨床研究部に所属しており、治験主任1名、非常勤CRC（治験コーディネーター）2名、非常勤事務助手2名と、外部CRCで治験と臨床研究に関連する業務を行っています。

治験管理室の主な業務は、患者さんに治験や臨床研究の説明と同意取得の補助、各試験の条件にあう患者さんの検索、電子調査票やワークシートへのデータ入力、治験薬の温度管理や使用する治験薬の割付、治験の進行に必要な書類の作成や保管、治験の契約書の作成、研究協力施設との連携などがあります。また、2か月に1回開催する倫理審査委員会と治験審査委員会の開催や資料準備も行っています。

国立病院機構では診療・教育研修・臨床研究を3大事業としており、全国に10か所の研究センターと77か所の臨床研究部を設置しておりますが、当院は、その77か所の臨床研究部の1つであり、臨床研究を独自に、あるいは多施設共同で行う治験管理室を備えた臨床研究組織の一部として機能しております。

国立病院機構のネットワークを活かし、疾患特異的iPS細胞やエイズ関連といった最新の研究や、糖尿病、骨・運動器疾患など幅広い分野での研究を行っています。

また、厚生労働省からの研究依頼や、群馬の地域病院が連携して行う研究などもあり、積極的な参加をしています。当院独自では、肺癌、肝臓等の固形癌、血液関連疾患、重症心身障がいなどについての研究も行っています。

治験、臨床研究に興味がありましたら、院内掲示や当院のホームページに参加している研究の一覧などを掲示していますので、是非ご覧ください。また、お電話により治験管理室に直接お問い合わせもいただけます。

何卒、よろしくお願いいたします。



日常業務の様子

認定看護師紹介



がん放射線療法看護認定看護師

がん放射線療法看護認定看護師 八塩 知美

がん放射線療法看護認定看護師は、放射線治療を受ける患者さんが安心して治療に臨めるよう、治療の選択から通院や入院に対する不安の軽減、治療の進行に伴って生じる症状の軽減、悪化予防のためのセルフケア指導など、多岐にわたり支援を行っています。治療に携わる医師や放射線技師、治療室担当看護師と連携を図りながら、日々の看護実践の中でスタッフへの指導や相談も行っています。

日本において放射線と聞くと、まず「原爆」や「原発事故」を思い出される方が多いのではないのでしょうか。第二次世界大戦末期の1945年8月、広島市と長崎市へ原子爆弾が投下され日本は唯一の被爆国となりました。戦争を経験していない私たちの世代でもその被害の甚大さに恐怖を覚えるほど、その経験が日本人にとって大きな影響を残す出来事だったといえます。こうした歴史的背景が影響してか、日本では放射線に対するマイナスイメージが強く、がん患者さんのうち放射線治療を受ける人数は他国と比べ1/2～1/3程度とされています。さらに東日本大震災での福島第一原発事故もまだ記憶に新しく、放射線への恐怖心は簡単に払拭することが難しいものとなりました。2020年頃からは新型コロナウイルス感染流行下での放射線治療に対する不安視も加わり、治療中の患者さんや治療を検討していた患者さんにとっては心労の多い日々だったことと思います。

また、放射線は目に見えないこと、どのようにしてがんの効果を得られているのかが理解しにくいことなどから、患者さんより「説明されてもよく分からないからお任せする」といった言葉がよく聞かれます。様々な不安を抱え治療に臨まれる患者さんに対し、少しでも安心して治療が受けられるよう分かりやすい説明を心がけ、安全に治療が受け終わるまでサポートできるよう取り組んでいきたいと考えています。何か気になることがある時にはぜひお気軽にご相談ください。





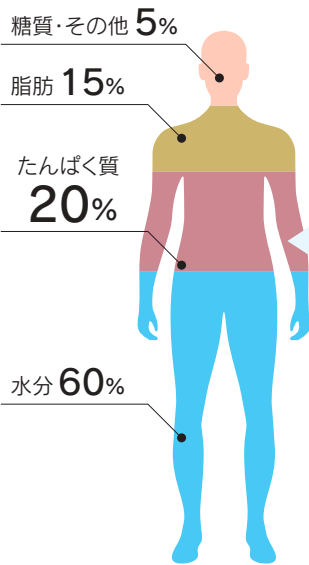
患者さんにとって耳よりの情報

からだの筋肉量や基礎代謝量を知ろう

栄養管理室長 高塚 真理

ヒトの体は約60%が水分で、残りは「骨」や「筋肉」「脂肪」などで構成されています。健康を維持するためには適度な筋肉と体脂肪が必要です。

当院では、インボディという体組成計を使って、筋肉量や体脂肪率を測定することができます。



からだは何でできている？

脂肪

内臓脂肪・皮下脂肪

たんぱく質

筋肉・コラーゲン・臓器・血液・酵素・ホルモン・髪・皮膚・爪など

水分

血液・リンパ液・消化液・組織間液

体脂肪率の目安

男 性					
年齢／判定	やせ	標準(一)	標準(+)	軽度肥満	肥満
18歳～39歳	～10%	11～16%	17～21%	22～26%	27%～
40歳～59歳	～11%	12～17%	18～22%	23～27%	28%～
60歳～	～13%	14～19%	20～24%	25～29%	30%～

【インボディ】

四肢に電極を装着し、約100秒で体の構成成分について分析する機器。

女 性					
年齢／判定	やせ	標準(一)	標準(+)	軽度肥満	肥満
18歳～39歳	～20%	21～27%	28～34%	35～39%	40%～
40歳～59歳	～21%	22～28%	29～35%	36～40%	41%～
60歳～	～22%	23～29%	30～36%	37～41%	42%～



ご存じですか？「障害者差別解消法」について

療育指導室長 山崎 利紘

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（通称）障害者差別解消法」は平成28年4月に施行され、障害のある人に対して、正当な理由なく、障害者を理由として差別することを禁止（不当な差別的扱いを禁止）し、障害のある人に「合理的配慮」を行うことを通じて、「共生社会」を実現することを目指しています。



令和6年4月1日改正法の施行では、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されました。

項目	国・市町村などの行政機関	事業者
不当な差別的取扱い	禁止	禁止
合理的配慮の提供	義務	努力義務→義務（令和6年4月1日から）

合理的配慮って何？

「合理的配慮」とは、個々の場面で障害のある人から「社会的なバリアを取り除いてほしい（社会的障壁の除去）」との意思が示された場合には、その実施に伴う負担が過重でない範囲で、バリアを取り除くために必要かつ合理的な対応をすることとされています。

合理的な対応ってどんなこと？

当院でも、聴覚障害のある方には筆談できる用具でご案内したり、移動の介助が必要な場合は、同伴にてご案内するなど、その方々の状況にあわせた対応を行っております。

最近では、コンビニエンスストア等でも指差しで注文できる仕組みや重度な身体障害者の方々がおむつの交換ができるユニバーサルシートの設置も群馬県内で進んでいます。

これからの未来に向かって…

「障害は個人の心身機能の問題だけでなく社会環境があいまって作り出されるものであり、障害による障壁を取り除くことは社会の責務・社会全体の問題」という障害の社会モデルの考え方が基盤となっています。

障害がある人もない人も、暮らしやすい社会となるために、できることから少しずつ環境を見つめなおしてみませんか？

このページは多くの人に分かりやすく、読みやすいよう工夫された「ユニバーサルデザイン」に基づいたフォントで作成しています。





澁川医療センター 外来診療担当医表

(令和7年1月1日現在)

診療科	時間帯	月	火	水	木	金
一般内科	午前 (予約)				モリ カズヨ 森 一世	
	午前				カワシマ チエコ 川島 智恵子	
循環器内科	午前	ナカノ タカヒデ 中野 考英(北関) (第1,3,5週) ヤマギシ トシハル 山岸 敏治 (第2,4週)	マツオ ヤエ 松尾 弥枝(北関) (第1,3,5週) イワサキ トシヤ 岩崎 俊弥(北関) (第2,4週)	ヤマギシ トシハル 山岸 敏治 (第1,3,5週)(予約制) クリハラ ジュン 栗原 淳(心血セ) (第2,4週)		ヤマギシ トシハル 山岸 敏治
	午後				ナカシマ クニキ 中島 邦喜(北関) (第2週) ツボイ エイトシ 坪井 栄俊(北関) (第4週)	
脳神経内科	午後		クロサワ リョウジ 黒澤 亮二(太記)	ヤナギサワ タカユキ 柳澤 孝之 (第1,3,5週13:30~)		ミチザキ ヒトミ 道崎 瞳(群大)
呼吸器内科	午前	オオサキ タカシ 大崎 隆	アライ フヒト 新井 史人(群大)	クワコ トモヒト 桑子 智人	シン ユウキ 申 悠樹	クワコ トモヒト 桑子 智人
	午前	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	ムラタ ケイスケ 村田 圭祐	ツチャ ユキコ 土屋 友規子	サクライ レイコ 櫻井 麗子(群大)	ワタナベ サトル 渡邊 寛
	午前	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	オナガ ノリアキ 砂長 則明(群大)	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	オオサキ タカシ 大崎 隆	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘
	午前		マスタ トモミ 増田 友美(群大)			
	午前から 14時迄	オチアイ マイ 落合 麻衣	オチアイ マイ 落合 麻衣	オチアイ マイ 落合 麻衣		オチアイ マイ 落合 麻衣
	午前		ワカマツ イクオ 若松 郁生(群大)		クロイワ ユウヤ 黒岩 裕也(群大)	
内分泌・ 代謝内科	午前			ヨシノ サトシ 吉野 聡(群大)	ショウダ ヨシヒト 正田 純史	シミズ トモヒコ 清水 智彦
	午後	シミズ トモヒコ 清水 智彦	シミズ トモヒコ 清水 智彦	ヤマダ マサノブ 山田 正信(群大) (第1週 14:00~)		ヤマダ マサノブ 山田 正信(群大) (第3週 14:00~)
小児科 (重心のみ・予約制) 小児神経(てんかん)予約制	午後			イノウエ フミタカ 井上 文孝(重心)		
	午後	イダ クニコ 井田 久仁子 (小児神経)				
血液内科	午前			アカシ ナオキ 明石 直樹		
	午前	カナヤ シュウヘイ 金谷 秀平	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	マツモト モリオ 松本 守生	マツモト モリオ 松本 守生	ミハラ マサヒロ 三原 正大
	午後 (予約)		オガワ ヨシユキ 小川 孔幸 (第3週)			
	午前	サイトウ アキオ 斎藤 明生	ミハラ マサヒロ 三原 正大	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	インダ アツシ 磯田 淳	サイトウ アキオ 斎藤 明生
	午前	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃		カナヤ シュウヘイ 金谷 秀平	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	オオサキ ヨウヘイ 大崎 洋平(群大)
	午後		サワムラ モリオ 澤村 守夫			
消化器内科	午前	ナカジマ ヨシミ 中島 良実	サトウ ヒロコ 佐藤 洋子	ヤマザキ ユウイチ 山崎 勇一(群大)	ムラカミ タツマ 村上 正真(群大)	オオシマ ケイイチ 大島 啓一
	午前	キムラ ユウコウ 木村 有宏	スガ タカシ 須賀 孝慶	ヒロカワ トモユキ 廣川 朋之	ナガシマ タモン 長島 多間	スズキ ヒデユキ 鈴木 秀行(原野日赤)
緩和ケア科 (予約制)	午後	コバヤシ ゴウ 小林 剛		ホシノ シュンヤ 星野 隼矢	コバヤシ ゴウ 小林 剛	ホシノ シュンヤ 星野 隼矢
精神腫瘍科 (予約制)	午後	マジマ タケヒコ 間島 竹彦	マジマ タケヒコ 間島 竹彦		マジマ タケヒコ 間島 竹彦	
放射線治療科 (予約制)	午前	マツウラ マサナ/カミヌマ タクヤ 松浦 正名/神沼 拓也	カミヌマ タクヤ/ナカムラ ユウジ 神沼 拓也/中村 勇司	カミヌマ タクヤ/クワコ ケイコ 神沼 拓也/桑子 慧子	カミヌマ タクヤ/クワコ ケイコ 神沼 拓也/桑子 慧子	カミヌマ タクヤ/クワコ ケイコ 神沼 拓也/桑子 慧子
	午後	クワコ ケイコ 桑子 慧子	マツウラ マサナ/クワコ ケイコ 松浦 正名/桑子 慧子	ナカムラ ユウジ/マツモト エイミ 中村 勇司/松本 瑛美	マツウラ マサナ 松浦 正名	マツウラ マサナ 松浦 正名
	午前	ナカムラ ユウジ 中村 勇司				
麻酔科	午前		ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆			ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆
	午後			セキモト ケンイチ 関本 研一 (ペインクリニック外来)		

外来受付時間 8時30分～11時00分 注) 担当医変更の場合もございますので、予めご了承ください。

※眼科の月曜日診察は紹介状をお持ちの方とご予約されている方のみ受診できます。

※整形外科は初再診にかかわらず、原則完全予約制です。

※第1・3・5水曜の循環器内科は完全予約制です。

※原則、午後は予約診察のみとなりますが、★印の診察については受付時間は15:00までとなります。

※(予約)と記載がある場合は、予約患者さんのみの診察となります。

※再診予約の方については16:00まで再来受付機での受付が可能です。

※やむを得ない事情により突然の休診や診療医師変更もございます。ご了承願います。

◎予約変更について 受付時間: 平日13~17時 TEL.0279-26-3010 (予約専用)

TEL.0279-23-1010 (代表)

診療科	時間帯	月	火	水	木	金
消化器外科	午前	マキタ フジオ 時田 富士雄	ヨシナリ ダイスケ 吉成 大介	タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文	マキタ フジオ 時田 富士雄	タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文
	午後		イチオカ ケン 市岡 健	スケガワ シンサク ★助川 晋作 (肛門科・消化器外科) (第1, 3, 5週13:30~)	術前外来	
	午前		ヌマガ ユキ 沼賀 有紀		タカハシ ケンゴ 高橋 研吾	
	午後				術前外来	
呼吸器外科	午前	ヤマキ エイ 八巻 英		カワシマ オサム 川島 修		カワシマ オサム 川島 修
	午前			オノサト リョウイチ 小野里 良一		ヤマキ エイ/オノサト リョウイチ 八巻 英/小野里 良一
脳神経外科	午後			ヒラト マサブミ 平戸 政史 (予約)		シマウチ ヒロヤ 島内 寛也(群大) (14:00~)
	午前	ゴウダ ツカサ 合田 司	タカハシ アキオ 【予約制】高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司	タカハシ アキオ 高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司
	午後			ミヤギシマ タカアキ 宮城島 孝昭		イベ ヨウコ 伊部 洋子(群大)
	午前		ヒラト マサブミ 平戸 政史		ヒラト マサブミ 平戸 政史	
	午後 (予約)				ヒラト マサブミ 平戸 政史	
ニューロ モデュレーション外来	午後			★ニューロモデュレーション外来 14:00~		
整形外科 (予約制)	午前	フリタ トシロウ 割田 敏朗	ヨコヤマ ナオアキ 横山 尚明		カナザワ サエコ 金澤 紗恵子	
	午後			オカムラ コウイチ 岡邨 興一 【リウマチ専門外来】		
	午前				術前外来	
	午前	カナザワ サエコ 金澤 紗恵子	術前外来 10時まで	イツカ ヨウイチ 飯塚 陽一	ヨコヤマ ナオアキ 横山 尚明	フリタ トシロウ 割田 敏朗
	午後	ハンドケア		イツカ ヨウイチ 飯塚 陽一		
泌尿器科	午前	タムラ ヨシミ 田村 芳美	タムラ ヨシミ 田村 芳美	インザキ マサノリ/ホリ ケイスケ 石崎 正徳/堀 慶典	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿
	午後 (予約)	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿		タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿
	午前	ホリ ケイスケ 堀 慶典	ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿	タムラ ヨシミ 田村 芳美	インザキ マサノリ 石崎 正徳	インザキ マサノリ 石崎 正徳
	午後 (予約)	ホリ ケイスケ 堀 慶典			インザキ マサノリ 石崎 正徳	タムラ ヨシミ 田村 芳美
	午前 11時迄				ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿	
耳鼻咽喉科	午前			オカモト アヤコ 岡本 彩子		オカモト アヤコ 岡本 彩子
皮膚科	午前	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美
	午前	キムラ ミノル 木村 成穂	キムラ ミノル 木村 成穂	キムラ ミノル 木村 成穂	キムラ ミノル 木村 成穂	キムラ ミノル 木村 成穂
甲状腺科	午前	ヨコタ トオル 横田 徹	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	ヨコタ トオル 横田 徹		ヨコエ タカオ 横江 隆夫
	午後 (予約)			ヨコタ トオル 横田 徹		
乳腺科	午前	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子	ヨコタ トオル 横田 徹	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子		ヨコタ トオル 横田 徹
	午後 (予約)		ヨコタ トオル 横田 徹			ヨコタ トオル 横田 徹
乳腺・甲状腺科	午前		サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子	ヨコエ タカオ 横江 隆夫		
眼科	午前					
	午後 (予約)		グンダイシ 群大医師	グンダイシ 群大医師		
	午前	アサトリ ヨウスケ 朝鳥 洋介(群大)				
歯科口腔外科 (休診)	午前 (初診)					
	午後 (再診)					

セカンドオピニオン担当医表 (令和7年1月1日現在)

科 別	予約時間	月	火	水	木	金
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後3時30分～	吉井 明弘	—	吉井 明弘	—	—
呼吸器外科	午前中	川島 修	—	—	—	—
血液内科	午後2時～	松本 守生	—	—	—	—
乳腺・甲状腺外科	午後2時30分～	—	—	横田 徹	—	—
消化器外科	午後	—	—	—	吉成 大介 沼賀 有紀	—
放射線科	午後3時～	—	中村 勇司	松浦 正名	—	—
緩和ケア科	午後	小林 剛	—	—	—	小林 剛
皮膚科	午後3時～	高橋 亜由美	—	—	—	—
泌尿器科	午後3時30分～	—	—	—	—	田村 芳美
脳神経外科	午後	—	—	宮城島 孝昭	—	—

※対象者：原則として患者さん本人、患者さんの同意を得た家族 費用：30分毎に5,500円

※お問い合わせ先：TEL0279-23-0626 地域医療連携室(直通)

患者さんの権利

1. 最善の医療サービスを受ける権利
2. 人格・人権を尊重される権利
3. 知る権利
4. 自己決定権
5. プライバシーを保護される権利

がん相談支援センター

- がんに関するご相談は「がん相談支援センター」でお受けします。
担当：ソーシャルワーカー
電話：0279-23-1010(代)
(受付時間は平日8:30～17:15です)
- メールによるご相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。
E-mail：207-ShibukawaMC_mbx@mail.hosp.go.jp

看護の理念 患者さんの立場にたち、心あたたかく、信頼に応える看護を提供します

看護の基本方針

1. 患者さんの尊厳と権利を尊重し、共に考える看護を実践します
2. 患者さんの気持ちに寄り添い、思いやりとまごころを込めた看護を実践します
3. 根拠に基づいた、安全で安楽な質の高い看護を実践します
4. 地域の人々と連携を図り、患者さんの生活の質の維持・向上に努めます

編集後記

謹んで新春をお祝い申し上げます。また、皆さまにとって巳(み)のり多き年となりますようお祈りいたします。実はわたしは年男です。48歳か60歳か。ご想像にお任せいたします。

さて今回は、昨年11月に開催した「連携協力医大会」の模様を紹介いたしました。高橋院長が初めて主催した大会となりましたが、閉会後の院長の笑みが有意義な会であったことを物語っていたと感じました。今年も他院と連携して良質な医療を皆さんに提供させていただきますので、本年もよろしくお願いいたします。(T.S)



独立行政法人国立病院機構 **渋川医療センター**

〒377-0280 群馬県渋川市白井383番地 電話 0279-23-1010(代) FAX 0279-23-1011

【ホームページ】<https://shibukawa.hosp.go.jp>